

## 日本患者同盟および朝日訴訟関係資料の概要目録作成とその概要把握 (中間報告)

### はじめに

日本患者同盟（略称、日患同盟）は、国公立・市立の病院・療養所の患者組織として、1948（昭和23）年1月に結成されたが、以後、六十余年にわたり当事者組織として注目すべき運動を展開してきた。

また、その過程で日患同盟が取り組んだ、いわゆる朝日訴訟（1957～1967年）は、生活保護などの社会福祉・社会保障の領域に大きな影響を与えた。

それらの歴史をつぶさに物語る膨大な関係資料が、2011年9月に、日本患者同盟から本学図書館に、寄贈された。それらの関係資料を、まず、大まかに分類・整理し、俯瞰することができる「概要目録」を作成すること、それにより本資料の概要把握を行なうことが、本研究の課題である。そのことは、将来的な課題でもある資料の公開・閲覧と研究の便を図るために、関係資料の「詳細目録」の作成および資料の破損・損傷・散逸を防ぐこと（保存）の方途をも探ることにつながる。

2012年度は、さきに本学図書館に、日本患者同盟から寄贈（2011.9）された、それらの関係資料を整理・分類し、当面二年度計画で「概要目録」を作成することを目標にして、作業を行ってきた。ここでは、その初年度分の取りまとめとして、以下のような中間報告にまとめた。

ところで、本資料の内容をなす日本患者同盟（以下、日患同盟と略す）および日患同盟が支えて取り組んだ朝日訴訟関係の文書資料の意義については、いくつかあげられるが、とくに次の点は強調しておきたい。それは、これらの文書資料が日患同盟（とそこに参加する全国の病院・療養所の患者会・患者自治会およびそれらの組織の構成員である患者たち）の、いわば当事者組織の活動・運動の歴史を物語るものと言える点にある。

社会保障や社会福祉、また医療などの生活保障の領域にあつて、それを受給する当事者の立場は、極めて弱い。中でも、とりわけ長期の治療や療養生活の下に置かれた患者たちの場合には、その疾患故に身体活動面での制約は大きく、自らの労働による所得稼得がほとんど期待できないだけに、この点は明白と言える。

そうした立場の当事者自らが、患者会や患者自治会に集まり、そこを拠点にした全国組織を結成し、自らの要求に沿った運動、活動や取組み、たたかいを展開してきたのである。本資料は、その展開過程をつぶさに復元・再現するための、得難い資料だと言える。

## 一 作業経過と整理・分類方針

### 1 寄贈された資料の現況

2011年9月に、日本患者同盟本部から小型トラックで数回にわたって運び込まれた寄贈資料は、膨大な分量に及ぶ文書資料であった\*。それらは、大量のダンボール箱および書類箱（整理ケース）に収納されていた。概算でしかないが、大き目のダンボール箱は約100強、書類箱は約300余ほどであった。

\* 実際には文書資料の他に、写真やスライド・映画フィルム、ポスターや旗なども含まれているが、ここではいわゆる文書資料に限定する。

ダンボール箱は、保管・運搬用の目的であると判断され、書類箱（整理ケース）は、本学図書館に運び込まれる以前に患者同盟本部で保管・整理用に用いられていたものと判断された。

それゆえ、それらのダンボール箱や書類箱の収納状況にとらわれずに、そこに含まれている文書資料自体の現況を把握することとした。まず、文書資料の形態的な存在状況は、次のようなものであった。

すなわち、それらのダンボール箱や書類箱から取り出された文書資料の存在形態は、大別して、次の四つのタイプに分けられる。

第一は、分量的に最も多く（概算で7～8割）を占めていたものだが、何らかの形でいくつかの内容の異なる文書資料が、ひとまとまりになっている文書資料群である。

すなわち、様々なタイプの書類綴（黒紐・麻紐で綴った厚紙表紙のものや簡便なファイル用綴）はじめ、紐などで束ねられた書類束、紙袋・大型封筒に入れられたものなどである。そこには、様々な文書資料類（冊子体のもの含む）が複数（多くは数点から数十点）含まれる。

第二は、量的には少ない（概算で1割弱程度か）が、簡便にせよ製本されている冊子や書籍と言える冊子体のものおよびノート類などである。

これらは、それなりの厚さのあるものがほとんどであるが、内容上は単独の文書資料である。前述の第一のタイプにも、これらのうち冊子体のものはかなりの程度含まれていたことは当然である。

第三は、量的には最もわずかと言えたが、いわゆる一枚もの（印刷したビラやチラシ、カーボン複写や和文タイプ等の印書）あるいはそれらを数枚程度まとめたもので、内容上は単独（個別）の文書資料である。

なお、同様な単独（個別）の文書資料が複数含まれていたものが、第一のタイプである。

第四は、第一のタイプに近いものと言えるが、本部段階の機関紙誌などの継続刊行物が綴もしくは束になったものである。その多くは、年次単位で綴られていたり、一般文書資

料とは別扱いになっている場合が多い。

また、分量的には、第一のものほどではないが、それに次ぐもので、概算でその1～2割程度（ただし、複本が著しく多かった）はあっただろう。

なお、県支部段階や各病院・療養所の患者会段階での機関紙なども、このタイプに近いものがあつたが、多くは第一のタイプ中に含まれている。

また、文書資料（あるいはそれらの群）の内容・性格面については、その大部分を占める第一のタイプの場合に、とくに問題がある。

すなわち、いわゆる書類綴などには、文書資料群ごとに、原資料（その表紙など）に、何らかの件名・タイトルの表示があるものが概算だが約三分の二ほど見られた。しかし残りのものには、何の記載もない。

しかも、書類束、袋や封筒入りのものには、何の記載もないものがほとんどであった。しかも、表示のあるものにしても、単なる時期（年次）や個人名の表示といったものもかなりあり、その資料群の内容・性格をそれなりにせよ示しているものは、さらに減少せざるを得ない。

そのため、それらの内容・性格を把握するには、そこに含まれる個別資料をおおよそ見ることが必要になるからである。

なお、第二、第三のタイプについては、いずれも個別資料であつて、第一のタイプなどとはレベルが異なり、その内容・性格は把握し易い。また、第四のタイプ（機関紙誌類）は、個別資料とやや異なるが、同様にその把握は容易である。

## 2 整理・分類の方針

そのような現況からなる膨大な分量の文書資料を、どのような方針で整理・区分するのかが問題であつたが、まず大まかな仕分け作業の方針として、当面、概要目録を作成することを狙いとして、次のような方針を定めた。

### a 基本単位としての「ファイル」（文書資料群）の設定

すなわち、大小様々な書類綴・書類束・袋入りのものなどの個々の文書資料がまとまった一群を「ファイル」と称して、それを整理・分類作業の基本単位とすることにした。

あわせて、それらのファイルごとに、その内容に相応しい件名（「ファイル名」）を付けることにした。

その件名は、書類綴等のファイルに何らかのその内容を示す記載があれば、出来るだけそれを「ファイル名」として採用し、そこに相応しい記載がなければ、「タイトルなし」として、その内容をチェックし、新たなファイル名を〔 〕内に補なう形で付けた。

このようにして、命名された書類綴・書類束・袋入りのものなどからなる「ファイル」を単位として、ごく大雑把だがそれらの「ファイル」を一定の系統性ある内容で区分し、分類することにしたのである

## **b バラ資料の扱い**

その際、バラ資料と呼べるものをどう処理するかが問題となった。ダンボール箱には、一定の「ファイル」と呼ぶことが出来る文書資料群と、まちまちではあるが数少ないにせよ、バラバラになった資料が入っていた。

これらについては、それらのバラ資料が、ダンボール箱に多数含まれている場合には、それらをまとめて、バラ資料群として処理することにした。なお、バラ資料の分量が著しく多くなる場合には、適宜、二、三のバラ資料群に分割して処理することもあった。

その「ファイル」は、「タイトルなし」として、バラ資料群であることを示して処理した。

## **c 現状保存の原則とその例外**

そのような単位としてのファイルものは、原則として分解しないことを心がけたが、そのままでは扱いに困るもの（目録としては不便）があり、その場合には例外として、原ファイルを分解、処理したものもある。

その代表的なものは、表紙や背に単に、年月や担当者名のみが記されているような書類綴の場合である。

それらは、その当該月や当該担当者に地方の構成組織（県支部や個別の患者会・自治会）から送付されたり、集められたりしたものと思われる。しかも、その中身は多分収集された月単位で、あるいは特定担当者単位で、内容的にはまったく順不同で、各種の資料が綴られているようなものである。

……これらは、やむを得ずその綴を分解し、バラ資料として、該当の内容によって、それぞれの分類区分のところに、区分整理するという処置をとった

## **d 日患同盟の歴史と系統性への配慮**

当然のことでもあるが、本資料は日本患者同盟という当事者組織の60年に及ぶ歴史に特化された資料群である。

したがって、その当事者組織の運動・活動、その取組みの特質とその歴史に沿った系統的な分類区分であることが望ましい。

さらに、そのことへの配慮とともに、一定の知識さえあれば、多くの研究者などに、その検索や閲覧にあたっての便宜も図る必要がある。それは、必要な資料、目指すべき資料に容易に到達できるような分類区分であることが求められる。

こうして、かなり詳細な内容を盛った分類区分（中分類）が作成された。実際には、それらの中分類区分は、いくつかの同じ領域のものからなっているため、さらに大きな枠組み（大分類）に統合することが可能である。

## 二 分類区分の枠組みと『概要目録』（大要）の構成

以上に示してきたような方針に沿って、具体的な諸資料（ファイル）の仕分けを行ない、分類・区分することにした。

### 1 分類区分の枠組み

その仕分け作業のための分類区分（案）の作成は、数回にわたっての試行錯誤が必要であったが、その作業はなお継続してなされており、試行錯誤の過程にある。試行錯誤の吟味、検討を続ける中で、その区分（案）は完成に近づく。

その意味では、別表（次頁）に示したものは、現在の時点（本年度の中間報告時現在）での、仮案と言える段階にある。この分類区分に従って、それぞれのファイルを分類し、それらの分類区分ごとに、そこに属するファイル名を配列すれば、目標とする概要目録は出来上がることになる。

ただし、それらのファイルをすべて精査し、その内容を確定し、命名する作業は、なお進行中である。また、別表自体もなお仮案の作業仮説の段階にあり、作業の進捗に伴ってその改良が進められる必要がある。

その意味で、本中間報告に「附」として示す、「概要目録（大要）」は中間段階のもので、個々のファイル名については省略してあり、単にその分量（ファイル数）を示すにとどまる。

そのような留保条件付きではあるが、その未完成の『概要目録』の「大要」を中間報告としてまとめた。その構成は、別表に見られる通りであるが、その分類区分は、前述したようにいわば中分類にあたるものである。したがって、大分類的にまとめれば、これらは、次の七つほどになると言えよう。

- ①日患同盟の決議機関関係……【01】～【05】
- ②日患同盟の役員会関係……【07】～【08】
- ③日患同盟の運動・活動・取組み関係……【11】～【16】
- ④同盟本部・事務局関係……【21】～【35】
- ⑤同盟本部の機関紙誌（継続刊行物）……【41】～【44】、【48】
- ⑥同盟各支部、各患者会・自治会関係……【51】～【77】
- ⑦朝日訴訟関係……【81】～【88】

そのような前提に沿って、この別表および附の『概要目録（大要）』は、まとめられている。

別表 日患同盟（朝日訴訟関係含む）関係資料／『概要目録』の概要

第一部 日患同盟関係文書資料

- 【01】 中央委員会関係資料(A～K) 1951-57
- 【02】 全国評議員会関係資料(A～M) 1958-68
- 【03】 書面大会関係資料(A～B) 1951-63
- 【04】 全国大会関係資料(A～D) 1969-77
- 【05】 全国大会関係資料(A) 1978 以降
- 【06】 幹事会関係資料(A～B) 1952-80
- 【07】 常任幹事会関係資料(A～B) 1957-88
- 【11】 日患同盟の運動・活動・取組み 1 / 要請書、請願書など対外提出文書(A～E) 1950-80年代
- 【12】 日患同盟の運動・活動・取組み 2 / 主に方針・報告、刊行物など(A～F) 1948-90年代
- 【13】 日患同盟の運動・活動・取組み 3 / 個別問題での取組み(A～) 1948-90
- 【14】 日患同盟の運動・活動・取組み 4 / 実施した各種の調査資料 1948-91
- 【15】 日患同盟の運動・活動・取組み 5 / 主に関連・関係団体でのもの(A～F) 1948-90年代
- 【16】 療養所長・病院長会議などの行政資料 1955-70
- 【21】 本部・事務局／加盟組織へのオルグ報告書など(A) 1950年代-60年代
- 【22】 本部・事務局／組織関係（加盟組織・人員、入脱会など）資料(A～F) 1950-90
- 【23】 本部・事務局／会計帳簿・領収書類(A～D) 1950-90年代
- 【25】 本部・事務局／加盟組織への通達類(A) 1950-90年代
- 【26】 本部・事務局／発・受信文書(A～G) 1950-90年代
- 【27】 本部・事務局／生活相談など各種の相談文書(A～E) 1950-90年代
- 【31】 本部・事務局／事務局日誌・ノート、当直日誌(A～F) 1951-70
- 【35】 本部・事務局／事務局員人事関係綴(A) 1953-67
- 【41】～【44】 本部機関紙／『日患情報』→『療養新聞』→『健康新聞』(No.1～No.2020) 1948-2010
- 【48】 本部機関誌／月刊誌『健康会議』（1巻1号～40巻4号） 1949-1988
- 【51】～【57】 各支部、患者会・自治会の一般文書資料
- 【51】(-A)～【57】(-N) (47都道府県別)
- 【61】～【67】 各支部・患者会・自治会の新聞・機関紙
- 【61】(-A)～【67】(-M) (47都道府県別)
- 【71】～【77】 各患者会・自治会の雑誌・文芸誌
- 【71】(-A)～【77】(-M) (47都道府県別)

第二部 朝日訴訟関係文書資料

- 【81】 訴訟経過・一審～最高裁(A～D) 1955-1967
- 【82】 訴訟関係中対委／活動資料(A～H) 1961-1968
- 【83】 訴訟関係現地対策など各種活動(A～F) 1954-1967
- 【84】 訴訟関係各種報道資料(A～B) 1950-1973
- 【85】～【86】 訴訟中対委／受信・発信関係(A～) 1958-196
- 【88】 訴訟中対委／機関紙（『人間裁判』No.1-215） 1961-1968

## 2 『概要目録』(大要)の内容/その簡単な解説

さきに、別表で示したように、附として添付した『日患同盟(朝日訴訟関係含む)文書資料概要目録(大要)』は、第一部(日患同盟関係)と第二部(朝日訴訟関係)からなるが、以下ではそれらの『概要目録(大要)』の構成と内容について、簡単に解説しておく。

### (第一部) 日患同盟関係文書資料

まず、(第一部)の日患同盟の文書資料は、大別して、1日患同盟全体ないし本部関係のもの、2加盟組織(各患者会・自治会および県支部)のものに分かれる。

#### (1) 日患同盟全体、本部関係の諸文書資料

日患同盟の全体ないし本部関係の文書資料としては、大別して以下のa～eの五つものからなる。

- a 全国的な決議機関の会議\* 開催関係に伴う各種関係資料
  - \* 時期により、中央委員会(1951-57)・全国評議員会(1958-68)・全国大会(1969-77)などと呼称が異なるが、実態はほぼ同様な日患同盟の意思決定機関である。
- b 本部役員会\* の開催に伴う各種関係資料
  - \* 役員会としては、幹事会と常任幹事会の二段階がある。
- c 日患同盟の活動・運動・取組みなどの各種関係資料
- d 本部・事務局の活動、取組など各種関係資料
- e 本部の刊行した継続刊行物(機関紙誌)

以下、これらのa～eの五つについてその性格や特徴などを示しておこう。

- \*1. 以下で、【 】付きの数字は、本概要目録の大分類の整理記号を意味する。
- \*2. あわせて、その大分類ごとに、そこに含まれる文書資料群:ファイル数を示しておいた。

#### a 全国的な決議機関の開催に伴う資料

日患同盟の全国的な意思決定機関としては、以下のような四つがあり、ここにはその開催に伴う様々な資料がある。

- 1 中央委員会(1951～57) …… 【01】 小計 43 ファイル
- 2 全国評議員会(1958～68) …… 【02】 小計 103 ファイル
- 3 書面大会(1951～63) …… 【03】 小計 16 ファイル
- 4 全国大会(1969～77) …… 【04】、【05】 小計 41 ファイル

これらのうち、1、2、4の中央委員会・全国評議員会・全国大会の三つは、時期によりその名称が変化したものに過ぎず、同様の決議機関である。いずれも原則として年一回開催され、その開催回数が呼称に付加され、連続している。

資料の内容としては、その招集案内、本部からの報告や方針等の提案事項やその関係資料類、構成組織や代議員などからの提案事項とその説明資料、また会議の際に採られた議

事録、決定・決議事項などなどである。

なお、3の書面大会のみは日患同盟に特有なものと言えそうで、前記の三つ（1、2、4）とは異なる。すなわち、特定の決定が必要な事項について、書面（郵便）で提案事項が送付され、それに対する賛否も郵送で送付され、その結果により決定する形がとられたものである。

臨時大会開催の経費やそれに要する時間が節約できたというプラス面があったが、討議ができないし、特定の単純な事項に絞らざるをえないと言うマイナス面もあった。

資料の内容としては、提案事項とその説明資料、代議員による投票とその集計結果などからなる。

それ故か、この書面大会という方式は、1と2の時期にのみとられた方法だったようである。

また、代議員会などの名称の決議機関も、特定時期に存在したようだが、数少ないもので、その位置付けは不祥である。

#### b 本部役員会の開催に伴うもの

日患同盟の役員会は、幹事会・常任幹事会の二段階のものがあつたようで、ここにはその開催時に配付されたり、作成された資料がある。

1 幹事会（1952～80）……【07】 小計 170 ファイル

2 常任幹事会（1957～88）……【08】 小計 100 ファイル

1は、その多くは、この間に開催された各幹事会ごとの会議議事録や記録メモや出席者名簿、委任状、提出議題と関係資料、決定事項などからなる。

2は、その多くはそれぞれの会議ごとの議事録および議事内容の速記メモ・ノートなどである。その他、時に応じて、関係議題・議案や各種の参考資料なども含まれる。議論の内容がよくわかり、興味深い。

#### c 日患同盟の活動・運動・取組みなどの資料

日患同盟の全体としての活動や運動、取組みなどにかかわる資料は、膨大なものがあるが、その性格・内容から見て、大きくは以下の六つからなる。

1 日患の要請書・請願書など（1950～81年代）……【11】小計 44 ファイル

2 日患の方針・報告、刊行物など（1948～90年代）……【12】小計 99 ファイル

3 個別問題・事件での活動・取組み（1948～90年代）……【13】小計 77 ファイル

4 日患の実施した各種の調査資料（1948～1990年代）……【14】小計 25 ファイル

5 関連・関係団体での活動・取組み（1948～90年代）……【15】小計 132 ファイル

6 療養所長・病院長会議など行政資料（1955～70）……【16】小計 11 ファイル

1の要請書・請願書などの対外提出文書とは、日患同盟が取組んできた運動・活動の中で、政府、とりわけ厚生省や時には各関係県（さらに病院・療養所当局など）に提出した要請書・要求書、国会（関係県議会含む）に提出した請願書などである。ここには、ほぼ30年余の間に提出してきた様々な文書であるが、そのほぼすべてと言えるものがここにあ

る。

2は、日患同盟がその運動や活動として取組んできた運動方針やその報告、あるいはその時々にとまとめた宣伝様の刊行物や関係の資料類などである。

3は、日患同盟がその運動や活動、たたかいとして取組んできた個々の問題、事件あるいは個別の病院・療養所単位での運動、活動などの記録・報告はじめ、その現場でのビラやチラシ、アピールなどの資料である。ここには、日患同盟がたたかってきた問題や各種の活動、事件にかかわる一次資料が豊富に含まれ、まことに興味深い。

4は、そのような数々の運動・活動の中でなされた様々な調査資料（調査票やその集計結果など）である。中でも、全国の病院・療養所の患者自身の様々な要求に関するものが多い。

5は、日患同盟が関係の諸団体とともに取組んできた運動や・活動に関するものである。全医労など病院・療養所関係の労働組合や医療関係者との共同闘争にかかわるものが多いが、原水金爆禁止や平和運動、安保闘争など運動の高揚期を反映した資料も含まれている。なお、

6は日患同盟自身のものではないが、最も活動・運動に影響の大きい行政関係資料と言える病院長・療養所長会議で配付された資料である。

#### d 本部・事務局の活動、取組などの資料

前掲のcとも重複するが、日患同盟の運動・活動は、本部・事務局が直接担うことが多い。それらの本部・事務局関係の資料としては、大別して以下の八つのものがある。

- 1 各組織へ派遣したオルグ報告（1950年代～60年代）……【21】小計 22 ファイル
- 2 組織関係（人員、入・脱会など）（1950～90年代）……【22】小計 44 ファイル
- 3 会計関係書類（1950～90年代）……【23】小計 6 ファイル
- 4 加盟組織への通達類（1950～90年代）……【25】小計 50 ファイル
- 5 発・受信文書一般（1950～90年代）……【26】小計 48 ファイル
- 6 生活相談など各種相談文書（1950～90年代）……【27】小計 13 ファイル
- 7 事務局日誌・当直日誌、各種ノート（1951～70）……【31】小計 68 ファイル
- 8 事務局職員人事関係資料（1953～67）……【35】小計 24 ファイル

これらのうち、1は、特定の事件や運動、あるいは組織拡大（加盟促進）などの任を負って各加盟患者会や自治会、各県支部などへ本部から派遣されたオルグの報告書などである。派遣されたオルガナイザーの目から見た現場の実況が報告されており、興味深い。

また、2のは、加盟組織（患者会・自治会）やその人員の現況、加盟組織の現況把握、入・脱会などの変動などに関する資料である。

3は、前掲の2とも関係するが、加盟組織からの会費納入・延滞状況や会計帳簿などである。

4は、様々な運動・活動にかかわって、本部・事務局から各支部、各患者会などへ出した通達を各時期別にまとめたもの（50ファイル）である。

5は、主に本部・事務局と各県支部、各患者会・自治会など、そのほか個人や他団体な

どと、取り交した各種の書簡・文書類である。運動や活動にかかわる患者会や自治会単位での現況や相談・質問などとそれへの回答（控）などが 48 ファイルの中に多数見られる。

6 は、主として個々の患者個人との間で取り交したもので、内容は生活相談や医療相談、転院相談はじめ、年金関係や各種の相談関係の書簡・文書類で、本部・事務局からの回答文書はその控である。13 ファイルとファイル数は少ないが、そこには数十件に及ぶ各種の相談文書が綴られている。

e 本部の刊行した継続刊行物・機関紙誌

日患同盟が機関紙誌として継続刊行していたものは、次に示すように機関紙としては『日患情報』→『療養新聞』→『健康新聞』があり、機関誌としては『健康会議』がある。

1 機関紙（『日患情報』→『療養新聞』→『健康新聞』）1948～99…【41】、【42】、【43】

2 機関誌（『健康会議』、月巻、第1巻～第40巻）1949～88……【44】

1の機関紙は、時期によってその新聞名が変化している。すなわち、当初の『日患情報』（1948.4～54.2、1号から199号まで）から、『療養新聞』（1954.2～80.8）と名を変え（200号から910号まで）、さらに911号からは『健康新聞』（1980.9～）へと名称変更している。なお、この『健康新聞』は、現在でも発行されており、2045号（2013.2現在）にまで及んでいる。

ここには若干の結合を除き、そのバックナンバーのほほすべてがある。その最盛期（1950～70頃）には、週に1回もしくは、10日に1回の割合で発行されていた（現在は、月刊）。それらは、活版印刷のタブロイド判（いわゆる普通の新聞紙の大きさの半分の小型新聞、時には、普通の新聞紙の大きさのブランケット判のものがある。

2の機関誌は、『健康会議』という名の月刊雑誌であり、1949年に創刊され、1988年まで、刊行された（医療図書出版社）。各号ともB5判の大きさを約60～80頁前後のものである。若干の欠号が見られるが、所蔵図書館等からの複写したものも含め、その全体内容を次年度までに明らかにする予定である。

(2) 加盟組織の各患者会・自治会および都道府県支部の文書資料

次に、加盟組織の各患者会・患者自治会およびそれらの府県ごとの地域組織の資料については、その内容・形態面での際などから、次のa～bの3種に区分できる。

a 一般文書資料（1950年代-80年代）……【51】～【57】 小計 339 ファイル

b 機関紙・新聞類（1950年代-80年代）……【61】～【67】 小計 296 ファイル

c 文芸誌など雑誌類（1950年代-80年代）……【71】～【77】 小計 151 ファイル

a 一般文書資料

日刊同盟の加盟組織である患者会や患者自治会（およびその都道府県組織の支部や支連）は、その運動や活動に応じて、それに伴う様々な文書資料と言えるものがある。それらは、一般に本部・事務局に報告資料として提出され、あるいは様々な方法で本部・事務局によって収集されたものである。

そこには、雑多なものが含まれるが、あわせて 339 ファイルもあるので、本概要目録では、都道府県別に区分してある。そのため、加盟組織が沢山ある大都府県と、その他の府県とのバラツキがある。

大要には、それらのうちで、以下の b や c に当たらない一般文書資料を取り上げ、都道府県別にあげてある。

#### b 継続刊行物である機関紙・新聞類

ほとんどの患者会や患者自治会（および都道府県単位の日患同盟支部）の多くは、その機関誌として新聞などの継続刊行物を発行している。それらは、全国であわせて 296 ファイルにもなり、そのすべての新聞名をあげるのは、分量の関係でとても無理である。

本概要目録（大要）では、それらの機関紙・新聞などの発行団体とその新聞名を都道府県ごとに、代表的なもの（その点数に応じて 1 点～数点）を例示するにとどめた。

#### c 継続刊行物中の文芸誌など雑誌類

患者会や患者自治会の組織されている病院・療養所の多くには、患者達の手で文芸誌（小説、俳句、短歌などの専門誌含む）や一般雑誌などが発行されていた。これらのうち、本部に届けられたものだけであるが、151 ファイルにもなる。

そのすべての誌名をあげるのは、分量上の理由から無理なので、ここには、都道府県ごとに、その発行団体と雑誌名を事例的に（その点数に応じて 1 点～数点）あげてある。

### （第二部）朝日訴訟関係文書資料

さらに、（第二部）朝日訴訟関係の文書資料については、その文書資料の性格により、以下のように七つに区分できる。

- a 訴訟関係資料（一審～最高裁）（1955～67）……【81】 小計 31 ファイル
- b 訴訟運動（その1）  
／中央対策委の活動、刊行物（1961～68）……【82】 小計 61 ファイル
- c 訴訟運動（その2）  
／現地対策委や支援団体の活動資料（1954～67）……【83】 小計 45 ファイル
- d 訴訟関係の各種の報道資料（1950～73）……【84】 小計 12 ファイル
- e 中央対策委／受・発信物関係（1958～6）……【85】～【86】 小計 52 ファイル
- f 中央対策委／会計・財政関係（1961～67）……【87】 小計 73 ファイル
- g 機関誌『人間裁判』No.1-215（1961～68）……【88】 小計 ファイル

これらについても、そのそれぞれについて、以下で簡単に解説しておこう。

- a 訴訟関係の文書資料（一審～最高裁）（1955～67）……【81】

ここには、一審判決から最高裁までの朝日訴訟資料が収録されている。すなわち、訴状、各準備書面、証拠書類、証言録、上告理由、各弁論要旨、各判決のほか、弁護団関係諸文書（弁護団発・受信含む）、各種パンフなどである。

b 訴訟運動：中央対策委の活動資料、刊行物（1961～68）……【82】

朝日訴訟は、日患同盟を中心にして、訴訟中央対策委員会が設立、組織され訴訟運動が展開される。ここにはその総会以降の総会記録や各種資料、中央対策委員会日誌、大行進はじめ各種の活動資料、映画（『人間裁判』）やスライドなどの製作および貸出簿などがある。

c 訴訟運動：現地岡山対策委や支援団体の活動資料（1954～67）……【84】

訴訟運動は、中央だけでなく、岡山の現地でも朝日茂氏の病床のある国立岡山療養所の療和会（患者会）を中心に現地対策委員会が組織されるが、ここには、それらの関係資料が含まれている。

d 訴訟関係の各種の報道資料（1950～73）……【84】

朝日訴訟は社会的にも注目されたが、そのあらわれとも言える各種報道機関の雑誌（記事掲載）などが、ここにまとめられている。

e 中央対策委／受・発信物関係（1958～6）……【85】～【86】

訴訟中央対策委員会や原告の朝日茂の受信・発信関係の各種資料である。

訴訟は、全国的な支援を受けて展開されたこともあり、そうしたことから多くの激励文などが寄せられている。

f 中央対策委／会計・財政関係（1961～67）……【87】

訴訟中央対策委員会の会計関係の帳簿類、決算書類、募金・文書や領収証などの証票類である。

g 中央対策委の機関誌『人間裁判』No.1-215（1961～68）……【88】

訴訟中央対策委員会は、その機関紙としてB4判の『人間裁判』という新聞を発行したが、ここにはその発刊から終刊に至るまでのバックナンバーが揃っている。

### おわりに／今後の作業課題と目標

今後の作業課題としては、「はじめに」でも述べたように、当面、次年度中に、本概要目録を完成させることである。この点は、今年度の作業として、その「大要」部分が何とかまとまったことで、実現可能な見通しとなった。

さらにそれらに基づいて関係資料の概要把握を行い、可能な限りその全体像を明らかにすることである。

なお、将来的な目標としては、この概要目録をベースにして、詳細件名目録を作成することがある。これらは、本資料を所蔵する図書館自体の課題でもあるが、関係資料の閲覧・公開を行なうためには、不可欠な目標と思える。また、原資料の多くは、戦後直後の粗悪な用紙が使われているため、老朽化や破損が甚だしい。そのため、資料の保存自体も重要になるので、その対策も必要となろう。これらの目標は、本研究の課題ではないが、その問題提起だけはしておきたい。